

2024年度 日本工学院八王子専門学校											
スポーツ健康学科三年制 スポーツビジネスコース											
企業・業界研究											
対象	2年次	開講期	前期	区分	必	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	永野和雄			実務 経験	有	職種	ホテル経営				
授業概要											
<p>変革を続けるスポーツ業界の中で、企業が求める人材像の変化について学びます。</p>											
到達目標											
<p>1. 自らの進路を考える上で企業の内情、抱える課題を自ら捉えられるようにします。2. 企業の抱える課題とその背景を理解した上でどのようにすれば解決できるのかを考えられるようにします。3. 企業の限界を知り、自らの将来のキャリア形成を考えるためのきっかけにします。</p>											
授業方法											
<p>スポーツに関わる企業の最新のトピックスを事例に討議を進めていきます。「企業における収益構造」、「企業経営における課題と解決策」、「企業が失敗する共通のパターン」などのテーマについて、1 講義・話題提供、2 演習・課題作成、のサイクルで学習を進めていきます。</p>											
成績評価方法											
<p>成績評価については、筆記もしくはレポートによる試験結果（中間/期末/定期的な提出物など）30%、授業中の参加姿勢/学習意欲（リーダーシップ、積極性、学習に対する向上努力など）30%、出席状況40%とし、授業内における達成度・到達度を総合的に判断して行います。</p>											
履修上の注意											
<p>学生間および教員とのコミュニケーションを重視します。課題や実習を通じて積極的に参加することで、授業そのものを主体化してください。情報に敏感になり世の中の動向を観察することで、広い文脈からこの科目で学んだことを結びつけて考えましょう。なお、授業時間数の4分の3以上を出席しない学生は定期試験を受験することができません。</p>											
教科書教材											
<p>毎回資料をプロジェクターで投影します。参考書・参考資料等は、授業中に指示します。</p>											
回数	授業計画										
第1回	<p>ケーススタディの進め方：ケーススタディを進める上で見るべきポイント、情報収集方法、分析手法などを理解します。</p>										
第2回	<p>ケーススタディの方法論：具体的な分析と事象の背景にある事柄をどのように見極めるかを理解します。</p>										
第3回	<p>ケーススタディの分析と討議1：スポーツに関連する企業を中心としたケーススタディにより、企業の内情を探り包括的に理解します。</p>										

2024年度 日本工学院八王子専門学校

スポーツ健康学科三年制 スポーツビジネスコース

企業・業界研究

第4回	ケーススタディの分析と討議 2：スポーツに関連する企業を中心としたケーススタディにより、企業の内情を探り包括的に理解します。
第5回	ケーススタディの分析と討議 3：スポーツに関連する企業を中心としたケーススタディにより、企業の内情を探り包括的に理解します。
第6回	ケーススタディの分析と討議 4：スポーツに関連する企業を中心としたケーススタディにより、企業の内情を探り包括的に理解します。
第7回	ケーススタディの分析と討議 5：スポーツに関連する企業を中心としたケーススタディにより、企業の内情を探り包括的に理解します。
第8回	ケーススタディの分析と討議 6：スポーツに関連する企業を中心としたケーススタディにより、企業の内情を探り包括的に理解します。
第9回	ケーススタディの分析と討議 7：スポーツに関連する企業を中心としたケーススタディにより、企業の内情を探り包括的に理解します。
第10回	ケーススタディの分析と討議 8：スポーツに関連する企業を中心としたケーススタディにより、企業の内情を探り包括的に理解します。
第11回	ケーススタディの分析と討議 9：スポーツに関連する企業を中心としたケーススタディにより、企業の内情を探り包括的に理解します。
第12回	ケーススタディの分析と討議 10：スポーツに関連する企業を中心としたケーススタディにより、企業の内情を探り包括的に理解します。
第13回	ケーススタディの分析と討議 11：スポーツに関連する企業を中心としたケーススタディにより、企業の内情を探り包括的に理解します。
第14回	ケーススタディの分析と討議 12：スポーツに関連する企業を中心としたケーススタディにより、企業の内情を探り包括的に理解します。
第15回	企業経営の未来と自分のキャリア：企業の限界を理解した上で自らのキャリア形成についての重要ポイントの理解と再確認をします。